

サトイモ*¹(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	乾 腐 病	疫 病	黒 斑 病	ア ブ ラ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ス ズ メ ガ シ 類	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	カ ン ザ ワ ハ ダ ニ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ
I Cボルドー66DFL	M1		-	-	◎										
フジドーLFL	M1		-	-	◎										
ジーファイン水	NC・M1		1	-	◎										
トップジンM水㊟	1		*a	1			◎								
ベンレート水㊟	1		*e	1	柄										
アミスター20FL	11		14	3	◎										
ランマンFL	21		1	2	◎										
カンパネラ水 ベネセット水	40・M3		7	2	◎										
ペンコゼブ水	M3		7	2	◎										
ベンレートT水20㊟	1・M3		*a	1	◎	◎									
ダイナモ顆水	21・27		21	3	◎										
コロマイト乳	6		1	2									◎	◎	
オンコル粒5	1A		*b *c	1				◎				幼	柄	柄	
ダイアジノンSLゾル	1B		*a	1								幼	柄		
ネキリエースK粒	1B		14	4						◎					
ネマキック粒	1B		*a	1											◎
ネマトリンエース粒	1B		*a	1											◎
アディオ乳	3A		7	5 2				◎	◎	◎					
ガードバイトA粒	3A		*d	5				柄	柄		◎				
トレボン乳	3A		14 7	3				◎	柄						
アクタラ粒5	4A		*a	1				◎				幼			
アドマイヤー顆水	4A	劇	14 1	2				◎	柄						
アドマイヤー1粒	4A		*c	1				◎	柄						
モスピラン粒	4A		*c	1				◎							
ディアナSC	5		1	2					◎	セ					
アニキ乳剤	6		1	3					◎						
コテツFL	13	劇	7 3	2					◎					◎	
パダンSG溶	14	劇	*a	1											◎
マトリックFL	18		7	3					◎						
ロムダンFL	18		1	3					◎						
カネマイトFL	20B		3	1					柄					柄	柄
マイトコーネFL	20D		3	1									◎	◎	
サンマイトFL	21A	劇	21	2									◎	◎	

サトイモ^{*1} (野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	乾腐病	疫病	黒斑病	アブラムシ類	ハスモンヨトウ類	スズメガタ類	ネキリムシ類	コガネムシ類	ハダニ類	カンザワハダニ	ネグサレセンチュウ
トルネードエースDF	22A		7	2					◎						
ファイントリムDF	22A		7	2					◎						
アクセルFL	22B		1	3					◎						
フェニックス顆水	28		1	2					◎						
プレバソンFL 5	28		1	3					◎						
ヨーバルFL	28		1	2					◎						
ウララDF	29		7	2				◎							
グレースシア乳	30		7	2					◎				◎		
プロフレアSC	30		1	3					◎						
オロンディスウルトラSC	49・40		7	2		◎									
ビーラム粒	-		*a	1											◎
プレオFL	UN		7	2					◎	◎					
ハクサップ水	1B・3A	劇	3	5					◎						

⑦:チファネートメチル含有剤 ⑧:ベノミル含有剤 ⑨を使用した場合には同じ作での⑩は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理及び塗布処理を除く、詳細はp. 856参照)。*1:サトイモ…えびいも、たけのこいも、やつがしらを含む

*a:植付前 *b:生育期(但し収穫60日前まで) *c:植付時 *d:生育初期 *e:催芽前

柄:サトイモ(葉柄)での登録

幼:幼虫

*セ:セスジスズメ

※サトイモ及び葉柄(ズイキ、ダツイモ)の両方を収穫する場合には、①野菜類あるいは②「イモ類又はサトイモ」と「サトイモ(葉柄)」の両方に登録がある農薬を使用する。また、サトイモ(葉柄)の登録における「使用時期(日数)」は、葉柄を収穫する前までの日数なので注意する。

サトイモ (野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病	普通												
	黒斑病												
害	乾腐病												
	ワタアブラムシ												
虫	ハスモンヨトウ												

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒斑病	定植前	1. 種いもは無病のものを選び植えつける。 2. 種いもを次の薬剤のいずれかで処理する。 トップジンM水和剤⑦ 200～500倍 20～30分浸漬 ベンレートT水和剤20⑧ 種いも重量の0.4～0.5%粉衣 20倍液 1分間浸漬	収穫期になって発生し、とくに台風後や降雨の続くとき多発する。 ⑦:チオファネートメチル含有剤 ⑧:ベンジル含有剤 ⑦を使用した場合には同じ作での⑧は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理及び塗布処理を除く、詳細はp. 857参照)。
乾腐病		1. 種いもは無病のものを選び植えつける。 2. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 アディオン乳剤 2000～3000倍	
ハスモンヨトウ	成虫発生初期	・フェロディンSL△※ 2～4個/ha設置	*イモ類での登録 △フェロモンの効果は2ヶ月程度持続するが、必要に応じ1.5～2ヶ月で更新する。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 2000倍 コテツフロアブル 2000倍	
その他の病害虫		汚斑病、軟腐病	